

Title	日本における遠隔診療ビジネスの在り方：アメリカ企業との比較から考察する
Sub Title	
Author	清水, 陽一郎(Shimizu, Yoichiro) 小林, 喜一郎(Kobayashi, Kiichiro)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2016
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2016年度経営学 第3167号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002016-3167">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002016-3167</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（ 2016 年度）

論文題名

日本における遠隔診療ビジネスの在り方—アメリカ企業との比較から考察する—

主 査	小林喜一郎教授
副 査	井上哲浩教授
副 査	大藪毅専任講師
副 査	

氏 名	清水陽一郎
-----	-------

## 論文要旨

所属ゼミ	小林 研究会	氏名	清水陽一郎
(論文題名)			
日本における遠隔診療ビジネスの在り方—アメリカ企業との比較から考察する—			
(内容の要旨)			
<p>1990年代の初期にインターネットが日本に導入されてから数十年経ち、各家庭にインターネット環境があるということが当たり前になった。また、スマートフォンを初めとした情報通信機器の発達、そして、そこに搭載されているカメラの精度の飛躍的な向上など、情報通信技術の発達も著しい。こうした技術発展の中で医療の提供の仕方というものも変化してきている。本論文ではそんな情報通信技術の発達を受け登場した医療提供方法の1つである遠隔診療を研究テーマとして取り扱う。</p> <p>遠隔診療は遠隔医療の1つの形態である。一般社団法人日本遠隔医療学会によれば「医師から患者に対して提供する遠隔医療」を「遠隔診療」、「医療従事者間で行われる遠隔医療」を「遠隔医療」として定義している。本研究では後者の「医師から患者に対して提供する遠隔医療」である「遠隔診療」を行うビジネスを取り扱う。</p> <p>これまでの先行研究においては医療従事者間で行われる遠隔医療の有用性、へき地等での遠隔診療の有用性に関する研究は比較的多く存在する。しかし、本論文で取り扱うような患者が自宅などから情報通信機器を使って直接医師とやりとりし、診察を受けるタイプの遠隔診療、そしてそのビジネスの実態に関する研究論文はほとんどないといっても過言ではない。これは日本において遠隔診療ビジネスが黎明期を迎えたのが2015年夏からであり、その歴史がまだ非常に浅いという事が大いに関係している。</p> <p>本論文ではこうした現在の遠隔診療ビジネスに関する研究の現状と将来の日本の遠隔診療ビジネスの発展を鑑み、事例研究を通じて遠隔診療ビジネスを日本において行う上での重要な視点を明らかにした。そして、アメリカ企業との比較により、日本企業がこういった戦略をとっていくべきかということ最後に提言としてまとめている。</p> <p>結論として遠隔診療ビジネスを行っている日本企業は日本における規制の影響と遠隔診療ビジネスに関する経験値の少なさという2つに影響を受けている。日本における規制の影響は大きく、今後もそう簡単に改正されるとは考えにくい。しかし、遠隔診療ビジネスを行う上で今回示すフレームワークの各視点に注意を払い、経験値がはるかに蓄積されているアメリカ企業の事例を参考にし、戦略を考えて行く事は重要である。</p>			